

令和6年度 静岡市中学校総合体育大会

熱中症予防対策プラン

サッカーの部

本大会は、気象状況によって暑い中での活動実施が予想されるため、熱中症の対策として、下記のような取組を致します。

記

【熱中症対策】

- ① ベンチを含む十分なスペースにテント等を設置し、日射を遮る。
※全選手/スタッフが入り、かつ氷や飲料等を置けるスペース。
 - ② ベンチ内でスポーツドリンクが飲める環境を整える。
※天然芝等の上でも、養生やバケツの設置等の対策を講じてスタジアム管理者の了解を得た上で行う。
 - ③ 各会場に WBGT 計を備える。
 - ④ 審判員や運営スタッフ用、緊急対応用に、氷・スポーツドリンク・経口補水液を十分に準備する。
 - ⑤ 熱中症対応が可能な救急病院を種目部長から会場責任者に伝達する。
 - ⑥ クーリングブレイクまたは飲水タイムの準備をする。
 - ⑦ 必ずピッチ上で、WBGT 計の黒球が日影にならないように計測する。計測時の WBGT 計の高さは、プレーする選手の年齢の平均身長 $\frac{2}{3}$ とする。
(例. 中3男子の場合、 $168.8\text{cm} \times \frac{2}{3} = 113\text{cm}$)
 - ⑧ 計測する時間はできる限り試合開始の直前、かつ両チームに対応方法を伝達できるタイミングとする。
 - ⑨ 試合中もピッチに近い場所で計測し続け、数値を把握する。
 - ⑩ ハーフタイム時(できる限り後半開始の直前)の数値により後半の対応方法を決定し、両チームに伝達する。
※原則として、前後半のプレー中に数値が変わっても対応方法の変更はしない。
- WBGT=31℃以上の場合、試合を中止または延期する。
- やむを得ず行う場合は、上記、熱中症対策を講じた上で、クーリングブレイクを行い、クーラーがある部屋を用意して行う。※選手等が試合中すぐに利用可能な距離にあること。
- ※中止や延期の判断は、試合前またはハーフタイム時に行うこととし、前後半のプレー中に試合を中止・延期はしない。試合前は大会の主催者または主管者、もしくはその代行者が必要に応じて主審と協議の上で判断し、ハーフタイム時は主審が大会の主催者または主管者、もしくはその代行者と協議の上で判断する。

※大会主催者は、中止や延期となった場合の対策や当該試合の取扱いについて予め規定しておく。

■ $28 \leq \text{WBGT} \leq 31$ （厳重警戒）の場合は、上記、熱中症対策を講じた上で、以下の対応を行う。
クーリングブレイクを行う。

■ $25 \leq \text{WBGT} \leq 28$ （警戒）の場合は、上記、熱中症対策を講じた上で、以下の対応を行う。
クーリングブレイク又は飲水タイムを行う。

【クーリングブレイク】

試合においてクーリングブレイクを採用する場合は、前後半1回ずつ、それぞれ3分の2の時間が経過した頃（45分ハーフの場合は30分頃）に3分間のクーリングブレイクを設定し、選手と審判員は以下の行動を取る。

- ① 日陰にあるベンチに入り、休む。
- ② 内部・外部から身体冷却する。
- ③ 水分補給する。（スポーツドリンクを推奨する）

クーリングブレイクを採用する場合は、以下の点に留意する。

- ① 原則として試合の流れの中で両チームに有利・不利が生じないようなアウトオブプレーの時に、主審が判断して設定する。
- ② 戦術的な指示も許容する。
- ③ チームが身体冷却用器具を持ち込む際は、事前に大会運営責任者の了承を得る。
- ④ 審判員はクーリングブレイクの時間を遵守するため、試合再開時には選手に速やかにポジションに戻るよう促すと同時に、出場選手の確認を行う。
- ⑤ サブメンバーは出場メンバーとの識別のため必ずビブスを着用する。運営担当者は試合再開時に出場メンバーの確認について審判員をサポートする。
- ⑥ クーリングブレイクに要した時間は「その他の理由」によって費やされた時間として前後半それぞれの時間に追加される。
- ⑦ クーリングブレイクを設定する場合は試合前またはハーフタイム時のロッカーアウトまでに両チームに伝達する。また、WBGT値に応じて、前半と後半の対応が異なる場合がある。
- ⑧ 状況に応じて、クーリングブレイクを前後半それぞれ2回以上取ることは妨げない。

【飲水タイム】

試合において飲水タイムを採用する場合は、以下の通りとする。

- ① 前後半それぞれの半分の時間を経過した頃、試合の流れの中で両チームに有利、不利が生じないようなボールがアウトオブプレーの時に、主審が選手に指示を出して全員に飲水をさせる。もっとも良いのは中盤でのスローインの時であるが、負傷者のための担架を入れた時や、ゴールキックの時も可能である。
- ② 選手はあらかじめラインの外に置かれているボトルをとるか、それぞれのチームベンチの前でベンチのチーム関係者から容器を受け取って、ライン上で飲水する。
- ③ 主審、副審もこの時に飲水して良い。そのために第4の審判員席と、第2副審用として反対側のタッチライン沿いにボトルを用意する必要がある。
- ④ スポーツドリンク等、水以外の飲料の補給については、飲料がこぼれて、その含有物によっては競技場の施設を汚したり、芝生を痛めたりする恐れもある。大会主催者が水以外の持ち込み可否及び摂取可能エリアについて、使用会場に確認をとって運用を決定するので、その指示に従って、飲水する。
- ⑤ 飲水タイムは30秒から1分間程度とし、主審は選手にポジションにつくよう指示してなるべく早く試合を再開する。
飲水に要した時間は、「その他の理由」により「空費された時間」として、前後半それぞれに時間を追加する。
- ⑥ 時間の経過にともなって環境条件がかなり変わった場合は、飲水を実施するかしないかの判断をハーフタイムに変更してよい。
- ⑦ 飲水を行う場合は、試合前（あるいはハーフタイム時）に両チームにその旨を伝える。
- ⑧ 飲水タイムは、あくまでも飲水のためである。戦術的指示を行うことはできない。
- ⑨ 飲水タイムとは別に、従来どおり、ボールがアウトオブプレーのときにライン上で飲水できる。
- ⑩ 状況に応じて、飲水タイムを前後半それぞれ2回以上取ることは妨げない。

上記の内容を各顧問は選手、保護者等に必ず伝達を行う。